

7 学習指導

学校教育においては、特色ある教育活動を展開し、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体などの「生きる力」をはぐくむことが求められています。

このようなことから、学習指導においては、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切です。

そのためには、体験的・問題解決的な学習の充実を図るとともに、児童生徒の興味・関心を生かし、自ら課題解決ができるような学習指導を進める必要があります。

1 学習指導を進めるに当たって

(1) 学習指導を進める際の教師の心構え

学習指導を進めるに当たっては、次のような心構えで授業に臨むことが大切です。

- 教えることを通じて自らも学ぶという姿勢で取り組む。
- 常に新たな気持ちと発想で臨む。
- 授業は学習指導の場であるとともに、生徒指導の場でもあることから、児童生徒の気持ちに寄り添い、一人一人の児童生徒理解に基づいた指導を行う。

(2) 学習指導に対する教師の意識

児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす学習指導を進めるためには、次のような子ども観や指導観、評価観をもつことが大切です。

子ども観

- ・一人一人が多様なよさや可能性をもった存在である。
- ・自分なりの思いや願いをもった主体的な存在である。

指導観

- ・児童生徒の側に立ち、よさや可能性を引き出し、伸ばす。
- ・児童生徒が主体的に学ぶことができる学習活動を授業に位置付ける。

評価観

- ・児童生徒のよさや可能性を共感的に捉える。
- ・自己実現を支援する。
- ・指導と評価の一体化を図る。

(3) 求められる授業

学習指導においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導の充実が求められます。そのためには、児童生徒の発達の段階や能力・適性、興味・関心などを的確にとらえながら、一人一人がよさや可能性を發揮し、主体的に学習に取り組むことのできる授業を工夫することが大切です。

○ 自ら学ぶ意欲を育む

知識・技能を一方的に教え込むような授業ではなく、児童生徒が自ら考え、判断し、表現するなど、進んで学習に取り組む力の育成を重視した指導が大切です。

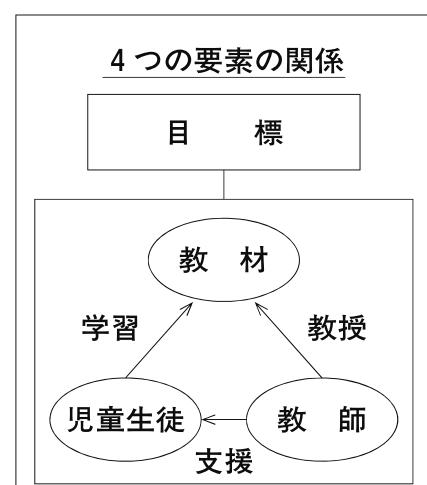
○ 学習の過程を重視する

教師は、児童生徒と共に学び考え、児童生徒の問題解決を支援していくという姿勢をもつことが求められます。知識の量や学習の結果だけでなく、学習の過程を一層重視し、児童生徒のよさや可能性、進歩の状況を積極的に評価するとともに、児童生徒が互いに取組のよさを認め合う場面を設定するなどの工夫を図ることが大切です。

(4) 学習指導における4つの要素

学習指導は、目標を実現するために、教師が教材を媒介として児童生徒の学習を支援する活動が中心となります。学習指導を進めるに当たっては、児童生徒(学習者)、教師、目標、教材という授業を構成する4つの要素の内容や関連を踏まえることが大切です。

- **児童生徒**は、教師の支援のもと、自ら考え、主体的に判断したり、表現したりすることを促す体験的な学習や問題解決的な学習を通して、知識及び技能を身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたりします。
- **教師**は、設定した目標を達成するため、学習課題を明確にし、児童生徒の学習に必要な情報や資料を提供するなどして、児童生徒自らが問題を解決することができるよう導きます。
- **目標**は、学習を通して習得する知識及び技能や高めようとする思考力、判断力、表現力等を示したもので、児童生徒にとっては学習のめあてとなります。
- **教材**は、各教科・領域の目標を実現するために活用する素材であり、目標と児童生徒を結び付ける材料です。また、児童生徒の学習意欲を喚起する材料であり、学習する内容そのものでもあります。



(5) 教科書（教科用図書）と補助教材

教科（科目）の主たる教材である教科書は、各教科（科目）の目標を達成するため、適切に使用する必要があります。また、児童生徒の能力・適性を踏まえ、効果的に使用することが大切です。

補助教材（教科書以外の教材）は、指導の効果を高めるため、必要に応じて計画的に活用することが大切です。補助教材の使用に当たっては、著作権法（第35、36条等）及び教育基本法（第14、15条）の関係法令に配慮するとともに、市販の教材のみに頼らず、児童生徒の興味・関心や能力など、その実態に即して各学校において創意工夫したものを活用することが大切です。

なお、各学校において教科書と併せて使用する副読本、解説書、学習帳、問題集、練習帳、その他の学習参考書を含む補助教材を採択しようとするときは、北海道教育委員会又は、各市町村教育委員会に届け出る必要があります。

(6) 学習指導の専門性を高める研修

教師には、学習指導、生徒指導、学級経営など、教職一般について円滑に職務を遂行することや、新たな教育課題に適切に対処できる能力が求められており、日ごろの職務を通じて自らの課題を発見し、解決し、成長を遂げていく過程を充実させ、より高い水準の教育を実現していくことが大切です。

学習指導においては、絶えず課題意識をもって授業に取り組むとともに、研修などを通じて自らの専門性を高め、指導力の向上に努めることが求められます。

- 校内研修では、例えば、学習指導案の作成の仕方、板書の仕方、発問の仕方、ノート指導や学習規律など、授業の準備から実際の展開に至るまでの授業実践の基礎について研修します。
- 校外研修では、例えば、授業設計や学級経営などの情報を得るとともに、新たな視点から自らの指導を見直し、指導方法等の改善などについて研修する。

教科・科目の目標を踏まえた指導

高等学校においては、教科・科目が多岐にわたっています。同じ教科であっても、科目の目標や指導内容が異なっていることから、それらに応じた指導方法の工夫を図ることが大切です。

教材研究に当たっては、教科・科目の目標を踏まえることはもとより、生徒の側に立ち、生徒が分かる授業を進めることができるよう工夫します。



授業観察・研究視察

充実した学習指導を展開するためには、自分の授業を観察してもらい指導を受けるとともに、他の教師や他の学校の授業を積極的に観察することが大切です。

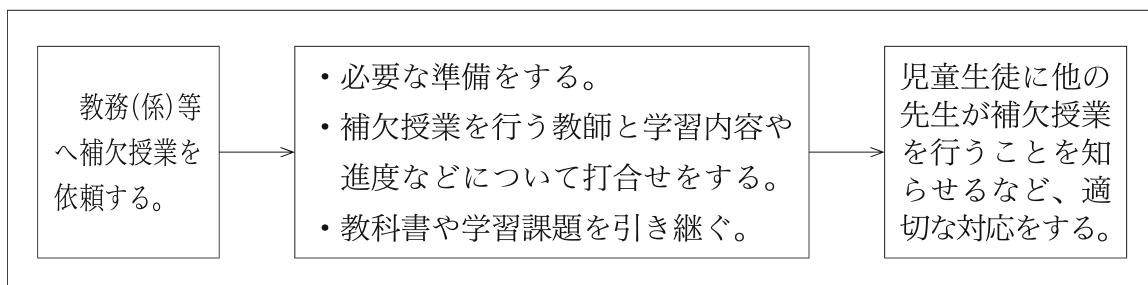
〈授業観察や研究視察の際の視点〉

- 学級（ホームルーム）経営に関して
⇒学習規律、担任の児童生徒への働きかけ、環境設営 など
- 学習指導に関して
 - ・学習指導案から
⇒目標、単元の指導計画、教材分析、指導の手立ての具体化、学習過程、評価の観点や方法 など
 - ・授業実践から
⇒児童生徒の活動の様子や変容など目標の達成状況、学習形態、教師と児童生徒の信頼関係、個に応じた指導、教師の基本的な指導技術 など
- 学習環境に関して
⇒学習のための環境構成、ICTなどの教育機器の活用の様子 など

補 欠 授 業

学習指導は、年間指導計画にしたがって進められるものであり、計画された授業時数を確保することは極めて重要です。しかし、出張や休暇などの事情によって授業を行うことができない場合は、補欠授業を行うことになります。

〈補欠授業の依頼〉



〈補欠授業を行う教師〉

教務（係）等との連携を図りながら補欠授業を行い、授業が終了した後は、指導内容や児童生徒の状況を当該教師へ報告することが大切です。